



内田光子 ©Richard Avedon

11.5 [火] 内田光子 ピアノ・リサイタル 吉田秀和 生誕100年記念コンサートー3 その再会は、暁の光に包まれて。

文 中村晃

世界中の聴衆から絶大な支持を受けている、当代最高峰のピアニストのひとり、内田光子。自身の納得できる演奏を行うために、「1年に50回以上は絶対に（演奏会で）弾かない」と、音楽雑誌のインタビューで答えています（『音楽の友』2004年1月号より）。それだけに、世界中のホールが内田さんをお招きしたいと熱望しているのですが、その実現は本当に困難なことです。しかし、光栄なことに水戸芸術館では、2011年に引き続き今年の11月にも、内田さんのリサイタルを開催できることとなりました。

本公演は、今年度の水戸室内管弦楽団の定期演奏会とともに、「吉田秀和 生誕100年記念コンサート」として開催します。2011年の水戸芸術館での最初のリサイタルの終演後に、吉田秀和初代館長は内田さんの楽屋を訪れ、近い将来、再びこのホールでリサイタルを行って欲しいというお話をされました。それから間もなくして、内田さんから、2013年に、水戸で演奏をしてくださるとのご連絡をいただきました。そのニュースを聞いて、吉田館長も、今回の公演をとっても楽しみにされていました。

内田光子さんと吉田館長との交流は、内田さんの幼年時代にまで遡ります。吉田館長が創立者の一人として関わっていた桐朋学園「子どものための音楽教室」の生徒の中に内田さんがいました。外交官であったお父様がウィーンに赴任することになり、当時12歳だった内田さんを

連れていきたいと考え、その是非を吉田館長に相談したそうです。ピアノの先生はまだ早いという見解だったそうですが、吉田館長は「もちろんいいに決まっている。」とお話をされたそうです（ONTOMO MOOK『吉田秀和一音楽を心の友と』音楽之友社刊より）。そして、内田さんはウィーンに渡り、音楽の研鑽を積み、その後ロンドンに活動の拠点を移し、国際的な評価を確立していきました。以来、吉田館長は、内田さんの活動に注目し続け、新譜がリリースされる度に、批評を書きました。

「ピアニスト内田光子の特質は、まず、緻密な計算に裏付けられた、非常に精緻で、充実した演奏をすることである。それでいて、彼女の演奏にはいかにも頭でっぴ上げたような、冷たい、作りものめいた感じがしない。つまり、内田光子は、精密で知的な演奏でありながら、旺盛なテンペラメントに満ちた音楽を聴かせる人である。」（『レコード芸術』1994年12月号より）

上記の引用は吉田秀和初代館長が、内田さんのCD「シューマン：クライスレリアーナ、謝肉祭」（フィリップス PHCP5300）を聴いて書かれた批評です。この文章の中にもあるように、内田さんは演奏しようとする作品の内部に徹底的に入り込んでいくので、たとえばリサイタル・ツアーを行う場合も、多くのプログラム案を用意するという事は無く、特定の作品を集中的に取り上げるスタイ

ルをとっています。

そんな内田さんの今回のプログラムの中核が、シューマンの〈森の情景〉作品82、〈ピアノ・ソナタ 第2番〉作品22、〈暁の歌〉作品133の3作品です。これらのシューマン作品は、先頃（国内盤は8月7日）に発売された最新CD（UCCD1383）の収録曲でもあります。内田さんはこれまでに、シューマン作品としては〈クライスレリアーナ〉、〈謝肉祭〉、〈ダヴィッド同盟舞曲集〉等を手がけ、録音しています。それに続くシューマン作品のレパートリーとして、今回の3曲が選ばれました。特に注目すべきは、シューマンの生涯最後のピアノ曲集となった〈暁の歌〉です。シューマンは46歳という若さでこの世を去っているのですが、その晩年は精神的な病に悩まされていました。〈暁の歌〉は、シューマンがその暗い精神の間に閉ざされてしまう直前に書き上げた作品です。シューマンのロマンティズムを徹底的に追求してきた内田さんにとって、シューマンが最後に到達した境地はどのようなものであると心に映ったのでしょうか？どうぞ注目ください。

内田光子 ピアノ・リサイタル

11/5 (火) 19:00 開演 (18:30 開場)

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 A席 ¥13,000、B席 ¥11,000

曲目 J.S. バッハ：(平均律クラヴィア曲集 第2巻) から 第1番 八長調 BWV870、
第14番 嬰へ短調 BWV883
シューマン：6つの小さなピアノ曲 作品19
シューマン：森の情景 作品82
シューマン：ピアノ・ソナタ 第2番 短調 作品22
シューマン：暁の歌 作品133

11.9 土 茨城の名手・名歌手たち 第23回(司会:池辺晋一郎)

茨城の若き「名手たち」—— 飛躍の瞬間をお聴きのがしなく!

文 高巢真樹

1990年の開館以来継続して開催しており、茨城の若手演奏家の登竜門として知られる「茨城の名手・名歌手たち」。第23回となる今年は、池辺晋一郎氏(当館音楽部門企画運営顧問)による司会のもとで開催します!

出演は、鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器部門での審査を見事通過した9人の名手たち。今年は15歳から24歳と、特に若い世代の演奏家が選ばれました。激戦区・鍵盤楽器部門で出演を決めたのは、秋山結菜さん、鈴木菜穂さん、和田絢子さん、渡邊真亜子さん、中村ひとみさん、

そして澤辺明音さん。いずれも音楽大学や音大附属高校で日々研鑽を積んでおり、またショパン国際ピアノコンクール in ASIA など各地のコンクールで積極的に実力を磨いてきた精鋭揃いです。ショパンやスクリャーピン、ラフマニノフなどの曲目を通じて、高い演奏技巧を駆使しながらいかに豊かな音楽性が発揮されるか、ぜひご注目ください。弦楽器部門では高橋尚子さんと野口わかかなさんが出演。華麗で伸びやかな演奏にご期待ください! ちなみに野口さんは現在、MCOでおなじみの指揮者、準・メルクルさん

から寄贈されたヴァイオリンを使用中です。そして今回唯一の男性出演者、中島裕康さんは、箏音楽の真価を多方面から探求中という、邦楽界の注目株です。

演奏会当日は会場にて、彼らのさらなる飛躍に願いを込めて、どうぞ大きな拍手をお贈りください!

茨城の名手・名歌手たち 第23回
11/9(土) 18:00開演(17:30開場)

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

全席自由 ¥1,500

司会 池辺晋一郎(水戸芸術館音楽部門

企画運営顧問)



秋山結菜
ピアノ



鈴木菜穂
ピアノ



高橋尚子
ヴァイオリン



和田絢子
ピアノ



渡邊真亜子
ピアノ



中島裕康
箏



中村ひとみ
ピアノ



野口わかかな
ヴァイオリン



澤辺明音
ピアノ

※左から出演順

self PORTRAIT
茨城の演奏家たち

11.16 土 at 14:00 仙波和音ピアノ・リサイタル 「故郷へ」～想いを込めて～

「ショパンが感じた空気を、私も感じて学びたい。」

ショパンの故郷ポーランドでの留学生活が始まったのは22歳の時。世界で一番難しい(?)と言われるポーランド語は事前の猛勉強も虚しく本当に難解な上、初めての海外生活に慣れない文化。今思えばマナステルスカ先生といったいどのようにしてレッスンが成り立っていたのか……。周りの人に助けて頂きながら、あっという間の4年間。そんな中、ショパンの没後低迷が続いたポーランド音楽界に光を与えたシマノフスキの作品との出会いは、本当に大きな財産となりました。ポーランド南部山岳地方の民謡に影響を受けた力強いその作風は、農民達が活き活きと床を踏み鳴らして踊る姿が目

浮かぶ様です。

「もっともっと色々な事を知りたい。」

更なる演奏力や表現力の向上と、古典派、またそれ以前を含む音楽の総合的な視野を広げるためにスイス国立ルツェルン音楽大学で教鞭を執る坂上博子先生の師事を仰ぐ事を決意。スイスへ渡りました。

そして5年、留学生活の集大成とも言えるこの度の演奏会は、偉大な作曲家達が各々先人への敬意を払いながらも、更に斬新で革新的な作風を生み出すチャレンジ精神が垣間見える様な作品を中心に構成されています。各曲が放つ圧倒的なエネルギーや色彩感など、数々の苦悩の中から作曲家が紡ぎ出したものを、よりの確に表現したい、私自身の「チャレンジ」への道のりも、

また果てしないものです。

留学生活9年、気がつけば31歳……最近になって思うのは、人が美しいと感じるものは皆違う中、私は「私の美」を見つけ自分の音での表現を追求し続けていくという事。豊かな自然と温かい人達。生まれ育った大好きな茨城で演奏できる事、そして皆様と水戸芸術館で音楽を共有させて頂ける事を誇りに思い、心から楽しみにしています。

仙波和音



11.24 日 at 15:00 井上 修 ピアノ・リサイタル



1810年、ポーランドに生まれ、繊細で抒情的な感性で、純粋に音楽そのものを表現したピアノの詩人、フレデリック・ショパン。1年後の1811年、ハンガリーに生まれ、圧倒的な魅せるテクニックで聴衆を虜にしたピアノの魔術師、フランツ・リスト。そんな相反する2人が1832年頃パリで出会い、お互いを認めながら自分ない才能に刺激を受け、ショパンは自分の作品の演奏技巧を磨き、リストは外面的だけでなく詩的な表現を深めていく。しかしショ

パンのテクニックは、あくまで音楽を表現するための二次的な役割で、リストの如何に華やかに聴かせるかという演奏効果をねらったものとは違った。また文学や宗教に造詣が深いリストの音楽は、ショパンのシンプルに音楽のみを楽しむ絶対音楽と異なり、何らかの具体的なイメージを表現する標題音楽で、やはりこの2人の音楽は相容れないものがある。

そんな2人の影響を強く受け、独自の世界を切り拓いていった作曲家にアレクサンドル・スクリャービンがいる。1872年、ロシアに生まれた彼は、ショパンのように？華奢で病弱だった反動か、自分ないものへの憧れか、リストの超絶技巧に傾倒する。そんな彼の前期の作品は、ショパンのようにデリケートで美しい旋

律と、リストのように演奏効果の高いテクニックで、独自のスタイルを見事に作り上げている。

今回はこの3人の作曲家に焦点を当て、それぞれの世界観を楽しんでいただけたらと思っております。

など書いていると、如何にも分かっている風に聞こえますが、実はリストの作品を演奏会で取り上げるのは初めての試み・・・大丈夫なのか？？そんなリストと向き合っていると、今度はショパンの音楽の難しさが浮き彫りになってきて…。ああ、誰か僕を助けてください！！

そんな壊れた僕をご覧になりたい方、純粋にピアノを楽しみたい方、秋も深まる11月24日15:00より、水戸芸術館にてお待ち申し上げます。 井上 修

9月の公演から

2013.9.27

ちょっとお昼にクラシック ドーヴァー海峡の向こう側

アイルランドの伝統音楽を深く探究する守安功さん（アイリッシュ・フルートほか）・守安雅子さん（アイリッシュ・ハーブほか）ご夫妻と、イタリアのパロック音楽を得意とする平井み帆さん（チェンバロ）とによる三重奏は、即興味満載で自由闊達。口承の民謡や伝統音楽の、楽譜に表せない音の肌合い、微妙な音程やリズム感を、大切にしているのだ。その情熱はトークからも伝わってくる。コンサートでは、楽器紹介を兼ねて、パーセル〈シフォーチの別れ〉（チェンバロ独奏）とアイルランド民謡〈ブライト・ヴィジョン〉（アイリッシュ・ハーブ独奏）が追加で演奏された。アンコールは、カニンガム〈夏の終わる時〉、イングランド伝統音楽〈長老派のホーンパイプ〉、オキャロラ

ン〈エリザベス・ヌージェント〉。《篠田》アンケートから■人と自然と音とが共に親しくあった時代。そんな時代の音楽なんですね。（笠間市の方）■アイルランドの風土、魅力を存分に味わうことができ幸せでした。守安功さんの解説と様々な試みが素晴らしいです。それだけ魅せられているということでしょうか。私にとっては、とても新鮮な時間となりました。（水戸市:M.I.さん）■なじみのない楽器だったが、分かりやすい解説で、とても楽しめた。社会背景や歴史などもよく分かった。このような説明を聞いて勉強もできるコンサートを今後も開いてほしい。（ひたちなか市:E.H.さん）■東京でなければ聴けないようなマニアックなプログラム、大歓迎です。アイリッシュ・ハーブ、素敵でした。（水戸市の方）■お話が楽しくて、お一人お一人のお人柄が伝わってきてHappyになりました。音を楽しむってこと、まさに！今日という日が楽しくなりました♪（水戸市の方）



1-3: ちょっとお昼にクラシック
ドーヴァー海峡の向こう側

小澤征爾館長出演のMCO公演の日程が決まりました。

水戸室内管弦楽団第89回定期演奏会

公演日：2014年1月17日(金)、19日(日)
指揮：小澤征爾、ナタリー・シュトゥツマン
チケット料金：S席15,000円、A席12,500円、B席10,000円
チケット発売：一般発売：12月1日(日)
財団運営維持会員先行予約：11月27日(水)
友の会(一般、法人)会員先行予約：11月28日(木)
※詳細は当館ホームページをご覧ください

チケット・インフォメーション

《10月26日(土) 発売分》

- アンサンブル奏 コンサート
2014年2/2(日) 14:00開演
料金[全席自由] 一般：前売り¥2,000(当日¥2,200)
高校生以下：前売り¥1,000(当日¥1,100)
- 兼氏規雄 クラリネット・リサイタル
2014年2/11(火・祝) 15:00開演
料金[全席自由] 一般¥3,000/学生¥1,000
- ちょっとお昼にクラシック
佐藤俊介 & 鈴木優人
2014年2/28(金) 13:30開演
料金[全席指定] ¥1,500(1ドリンク付き)

これからの演奏会・残席情報

- …残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
◎親と子のファミリーコンサート「バロック音楽で楽しむ
“三匹の子ブタ”」……………10/20(日) 中央△、左右○
◎第51回あひるの会合唱団定期演奏会……………10/27(日) 自由席○
◎内田光子 ピアノ・リサイタル
……………11/5(火) 中央×、左右・裏△、補助○
◎茨城の名手・名歌手たち 第23回(司会：池辺晋一郎)
……………11/9(土) 自由席○
◎仙波和音 ピアノ・リサイタル……………11/16(土) 自由席○
◎井上修 ピアノ・リサイタル……………11/24(日) 自由席○
◎クリスマス・プレゼント・コンサート 2013
……………12/23(月・祝) 中央○、左右○

※10/1(火)現在の状況です。
※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせください。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な11月のスケジュール

コンサートホール ATM

- 内田光子 ピアノ・リサイタル
11/5(火) 19:00開演 ※当日は休館日ですが16:00に開館します。
料金[全席指定] A席¥13,000/B席¥11,000
- 茨城の名手・名歌手たち 第23回(司会：池辺晋一郎)
11/9(土) 18:00開演 料金[全席自由] ¥1,500
- 仙波和音 ピアノ・リサイタル
11/16(土) 14:00開演 料金[全席自由] 一般¥2,500/学生¥1,500

- Sweet & Swing 楽しいジャズコンサート 芸術文化活性化事業
11/17(日) 14:00開演 料金[全席指定] ¥1,500
- 井上修 ピアノ・リサイタル
11/24(日) 15:00開演 料金[全席自由] 一般¥3,000/学生¥1,500

エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート
11/2(土) 井上紗和子、23(土・祝) 紺野麻衣
各日12:00~/13:30~(各回30分程度) 入場無料
- ★パイプオルガン・コンサート《プロムナードスペシャル》
11/30(土) 鈴木優人 13:00~のみ(50分程度) 入場無料

ACM劇場

- ACMファミリーシアター『大どろぼうホツツェンプロッツ』
11/3(日) 16:00開演、11/4(月・祝)、9(土)、10(日) 15:00開演
料金[全席指定] 大人¥2,000/子ども(5歳から小学6年生) ¥800
- オフ・ブロードウェイ・ミュージカル『フォーエヴァー ブラッド』
11/17(日) 13:00/17:00開演
料金[全席指定] S席¥7,500/A席¥6,000/B席¥4,500
- 春風亭昇太 独演会
11/26(火) 18:30開演
料金[全席指定] S席¥3,500/A席¥3,000/B席¥2,500

現代美術ギャラリー

- ダレン・アーモンド 追考
11/16(土)~2014年2/2(日) 9:30~18:00 ※入場は17:30まで
[休館日] 月曜日、12/24(火)、年末年始 12/27(金)~1/3(金)、1/14(火)
※ただし12/23(月・祝)、1/13(月・祝)は開館
[入場料] 一般 ¥800/前売り・団体(20名以上) ¥600
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料
- クリテリウム88 佐藤志保 ※料金は展覧会の入場料に含まれます。

茨城の主な11月の演奏会

- 佐川文庫 TEL / 029(309)5020
・宮田大 チェロ・リサイタル 11/16(土) 18:00開演(チケット完売)
- ひたちなか市文化会館(大ホール) TEL / 029(275)1122
・チェコ・フィル・プラス 11/22(金) 18:30開演
- 日立シビックセンター(音楽ホール) TEL / 0294(24)7720
・第23回 ひたち室内楽フェスティバル アンサンブルの祭典 2013
11/4(月・祝) 10:00開始
・チェコ・フィル・プラス 11/23(土) 18:30開演

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000
営業時間：9:30~18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>

ATM便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

今こそこそ「台風一過」とわかりますが、恥ずかしながら、わりと最近のある時期まで、台風のお父さん、お母さん、こども…そう、「台風一家」だと思ひ込んでいました。それにしても、台風が去った後の秋の空気が最高。(り)

紅葉の季節だ！時期がずれるとまだまだだったり、突然の雨風で散ってしまったり。紅葉目的の旅は難しい。やはり日頃の行いが響くのかな。ベストタイミングに出会うべく素行に気をつけたりするのである。(og)

自分たちの結婚披露宴に向けての準備も佳境。当日に到るまでの一歩一歩の準備の道筋を、自分たちで体験してみると、絶えず新たな発見があり、とても面白く、また勉強にもなる。このプロセスがとても幸せだと思う。(篠)

残された時間はあとひと月。せめて去年と同じ水準に戻さないといえね、健康診断の話です。この夏、気前よく「増量サービス」を展開してしまったので。目下、毎朝体重計に乗って首を傾げたり、にんまりしたり。(て)

ダニエル・ラノワ『ソウル・マイニング』音楽的自伝。カナダの小さな町から世界のレコードプロデューサーとなった彼の言葉には音楽への途方もない情熱がある。高い質を追求し続けることの価値を伝える一冊。(樹)

世界中どここの会場でも内田光子さんの公演には、ハンブルク・スターンウェイのカリスマ的なピアノ技術者ジョージ・アンマン氏が随行する。水戸公演でも、内田さんが認める楽器が運び込まれ、アンマン氏が調整する。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]
2013年11月発行 第181号
編集発行：水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
URL <http://arttowermito.or.jp/>
編集：水戸芸術館音楽部門(五十音順) / 石井亮子
大金絢子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
デザイン：大金絢子
印刷所：山三印刷株式会社